

602室へようこそ

マジウドウバ・アンジェリック
日本語・日本文化研修留学生 フランス

民間の会社が経営するシェアハウスの、6階にある広い602室へようこそ。玄関に靴が多いので、足元にご注意ください。たくさんのお客さんがいるかって？お客さんはいませんが、ただ女性3人の部屋なのです。入ってからは電気を消して下さい。節電に気をつけましょう。602室はいつも電気がつけばなしです。さて、602室を紹介しましょう。

部屋に入ると右に春華の部屋があります。ダンス好きで、ソムリエの資格を持っていて将来ホテルで働く夢を持つ人です。いつも明るく強気でやる気満々の春華ちゃんはシェアハウスのお母さんとも呼ばれていて、シチューの神様であり、よさこいサークルの元代表です。

左には麦穂の部屋があります。麦穂とは珍しい名前だなと思うかもしれませんが、彼女はその名前の意味と同じようにきれいな女性なのです。麦穂はスペイン語が話せて、夜に散歩するのが大好きで、どこでも居眠りしてしまうお酒が強い人です。

最後に、アパートの奥の右にある部屋（部屋と呼べるかどうかわかりませんがね）は黒い口紅をよく塗って、シャワーでは歌を歌い、いつもパジャマ姿でいて、はっきりものを言うパリジェンヌのアンジェリックの部屋です。



どうぞ、リビングのソファに座ってください。そうですね。ちょっと乱雑な部屋ですね。使っていない二台の冷蔵庫、並べられた空のお酒のボトルがあるので、一見散らかっているようです。けれども、このアパートは心地よいです。ここには命が感じられます。ここには本物の家族が住んでいますよ。

例えば、リビングの真ん中にあるこのテーブルには女性三人の家族との思い出がたくさんあります。冬は彼女らの体を温めるため、暖かいコタツに変えられ、座ると彼女らに囲まれました。どれだけの料理をそのコタツの上で見てきたのでしょうか。鍋、カレー、シチュー、クレープ、寿司、恵方巻き、ケーキなどの多くの美味しいものがそのテーブルにのせられ、それらを彼女らと上機嫌で一緒に食べてきたのを、何度見届けてきたことでしょうか。このテーブルはお嬢さんたちが宿題をやる度にノートとパソコンの重さを何時間感じてきたのでしょうか。アンジェリックは麦穂にスペイン語、そして春華には英語を手伝い、春華と麦穂は交代でアンジェリックの日本語を直しています。このテーブルを囲んで、彼女たちは初め



て深いプライベートな会話をしました。このテーブルで彼女たちそれぞれの大事な出来事が祝われました。そうですね、一年間という短い期間ではありますが、家族内では色々ありましたね。アンジェリックのスピーチコンテストの優勝、春華の就職活動の内定、麦穂のスペインへの留学などです。そして、誕生日も、彼氏について話す夜も、恋の悩みも、失望も、つまり喜怒哀楽を共にしました。このテーブルと共に一緒に笑ったり、泣いたりしました。

けれども、602での生活はいつもバラ色ではないようです。文化と習慣の違いがあるので、お嬢さんたちがお互いに譲り合うように心がけているようですね。アンジェリックは夜のダンスパーティーをするのが管理人に叱られるほど好きです。しかし、麦穂と春華は文句を言いません。一方で彼女らはアンジェリックが寝ている部屋の前で長時間に渡ってうるさく話すこともあります。しかし、アンジェリック



は文句を言いません。それから、掃除の問題もありますね。3人がそれぞれ全部自分一人でやっていると思っていて、ある人は自分も結構やっていると思っていることがあるようです。誰が正しいかわからないので、一緒にやる方が簡単だと彼女たちは解決を見つけたようです。フランス人がよく言うように、「長所で人を好きになり、短所で人を愛する」。

602室に住んでいる女性たちは、一緒に出かけることもありましたね。カラオケ、レストランや居酒屋、温泉などに行きましたが、それだけではなく、お花見や奈良や岬公園に観光に行きました。二人の日本人はアンジェリックに喜んで日本を紹介してくれます。

和歌山というのはこれだとアンジェリックは思いました。それは、遠く離れた地の果ても親密になり慰め合うことができる人がいること、大変な時に頼れる人がいること、マイホームと感じられる場所を持っていることです。関西人は優しくオープンな人たちと言われます。それは確かにそうですが、日本人の友達を作るのは外国人にとってまだ難しいようです。日本人と親密になるというのは、他の外国人には手に入れないプレゼントです。あなたの悪いところまでを理解してくれる人、あなたの性格をわずかな時間で判断しない人、あなたのすべてを受け入れてくれる人がいることは、例えどんな場所に住んでも自分を開花させるために大事なことです。確かに、他人に胸中を披瀝するには一年間は短くて、お互いに打ち明け合うにはまだまだ時間が足りないですが、一緒に歩いてきた軌跡を見ることができます。帰国する日が近づき、602室でみつけた友情が続くかどうかわかりませんが、アンジェリックは三人で過ごした日々のおかげで和歌山をもっと自分の家のように感じることができました。

今回、彼女があなたたちを602室にむかえたのはそれを見せるためです。この部屋は色々な人が集い、皆で築いてきた小さい家族との和歌山での生活を象徴する乱雑なマンションの一室です。アンジェリックは母国が恋しく寂しくなる時にも日本の家族がいるので一人だと感じませんでした。602室に遊びに来た友達と、そして一緒に住んでいる春華と麦穂という家族のおかげで和歌山の経験は忘れられないものになりました。

日本の家族の皆さん、ありがとう